

幼稚園で漢字を覚えても、小学校に進んで漢字を使わないでいたら、すっかり忘れてしまうのではないか。無駄になるのではないか。

石井方式漢字学習の目的は、すでにたびたび述べていますように、“漢字を覚える”ことを直接の目的にしません。漢字で学習することにより、幼児の思考力が正しく発達し、頭の働きが良くなることをねらっているのです。

ですから、漢字をたくさん覚えても、反対に覚えられなくても、それを問題にしていけないのです。

したがって、幼稚園で漢字をたくさん覚え、小学校に進んで、これを使う機会がなくなれば忘れてしまいますが、忘れても良いのです。なぜなら、漢字学習によって高められた頭の働きだけは、決して悪くなることはないからです。

それに、忘れたとしても、それは頭に記憶された漢字がなくなるのではありません。しまい忘れて、どこにあるか取り出すことができないのと同じで、頭の中には記録されて残っているのです。

だから、再学習の時に、初めて学習する子供よりは、有利です。だから、忘れてしまったように見えても、何も学習しなかったのと全く同じではないのです。

とは言うものの、漢字を数多く覚えていることは、読書にたいそう役立つことですから、小学校で漢字を学習しなかったら、できるだけ漢字を読む機会を作ってやって、漢字を忘れないようにしたほうがよいことはもちろんです。

それには、漢字で書かれた書物を、できる限り与えて読ませることです。ただ、今では漢字で書かれた幼児向けの書物は多くありません。

なお、子供の興味を示す面の書物でしたら、一年生でも、十分に五、六年生向けの書物を読みこなす能力がありますので、そういうものを子供に選ばせて買ってやるのもよいと思います。